



深川社協だより

ふかわ

第52号

2019.1.25

■ 編集発行 深川地区社会福祉協議会広報部会 ■ 発行人 向井文武

『今年も頑張るぞ!』中深川福寿会「グランドゴルフ同好会」の皆さん



深川地区社会福祉協議会

会長 向井文武

新年のご挨拶

皆様にはお元気に新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は七月に起きました「西日本豪雨災害」深川地区においても、奥迫地区の山崩れ、三篠川の氾濫により深川小学校・保育所・高陽公民館・区役所高陽出張所・中郷、西塚地区の民家の二百軒近い床上、床下への土砂流入、多くの田畑への土石の流入の被害がありました。幸い死傷者が出なかったものの、甚大な被害が発生しました。

被害を受けられた多くの方々にお見舞い申し上げます。

この被害復旧には、地元住民の方々をはじめ近隣近郊の方々、多くのボランティアの方々が集まって、猛暑にも関わらず一心一丸となって復旧活動をしていただき、お陰様で速い復旧が出来ました。

被害に遭われた方々より、お世話になった皆様に感謝の気持ちを伝えてほしいとのことでした。

このことは常日頃からの地域住民同志の繋がり、助け合い、支えあい、共助の心があつての賜物と深川地区の誇りに存じます。

さて、今日の社会問題となっております高齢者の平均寿命、健康寿命の延び、人口構成の変化・担い手不足、いずれも深川地区にも到来します。

人口構造の変化の対応には、元気な高齢者の社会参加と地域活動の担い手、貢献者、支援者となっていくことが重要です。「誰かに任す」のではなく、これから皆と一緒にやってやれば自分でも出来る「生き甲斐づくり、体力づくり。社会参加の環境づくり」に皆様のお知恵や経験を生かして、地域の担い手として、元気で長く働き続けられる地域、深川にしたいと思っております。

ご協力よろしくお願ひしますと共に、皆様のご健康とご多幸を祈念いたしました新年のご挨拶いたします。

深川で暮らしたい
安心して暮らすために
深川社協もお手伝いします

昔のように大家族なら、家族の中で育児や介護外出など補いあえていたことも、核家族化が進んだ今日では、家族が小さくなり、不便なことも出てきます。

元気な時は出来ていることも、加齢や病気と共に身体が弱り始めるとできないことが増え、我慢することも多くなり、日々の生活の中で、暮らしづらさを感じるようになってしまいます。

高齢者だけの暮らし、子どもたちと同居している方でも、日中一人の人など、高齢者の方からは、次のような不安や悩み、困りごとなどがよく聴かれます。

よく聞かれる不安・悩み・困りごとの
つぶやき集

- ◆「ゴミステーションまでが遠い。ゴミの分別がよく分からない」
- ◆「買い物・灯油・漬け物石などの重いものが提げられない」
- ◆「回覧板を持って行くのが苦になる」
- ◆「車の運転に心配はあるけど、通院など考えると免許は手放したくない」
- ◆「これまで参加していたサロン会場へ歩いて行けなくなった」
- ◆「夫婦二人暮らし、おじいさんの介護が大変」
- ◆「妻に先立たれ、日々の食事の支度が大変」
- ◆「夫に先立たれ、車の運転が出来ないから買い物に行けない」
- ◆「もしも災害が起こったら、まわりは高齢者ばかり、どうしたらいいのだろう」

そこで、皆さん

『ひろしま介護サポーター養成講座』
へ参加しませんか

ひろしま介護サポーターとは、介護が必要な人を地域全体で支えるために、介護の基本を理解しサポートができる力です。

講座の内容は介護に関する基礎的な講義と車椅子などを使った実技を行います。講師は福祉施設で働く介護のプロの方が担当されます。

介護サポーターになると、あなたのやさしさと勇気がカタチになり誰かの役にたちます。困っているお年寄りやからだが不自由な人に声をかけたり、お手伝い出来るようになります。

誰もが年を重ねます。皆様の周りにも介護を必要とする方がおられることと思います。

「介護が必要な人を地域全体で支え合うまち、深川」

深川地区社会福祉協議会では「ひろしま介護サポーター養成講座」の開催を計画しています。

「深川で暮らしたい」そう思っていただけまちづくりにあなただけでありませんか。一人でも多くの方の受講参加をお待ちしています。

詳しい内容のお問合せや、参加申込みを「深川地区社協ふれあい」はお待ちしています。



♣深川地区社協ふれあい♣

開館日 毎週水曜日 9：00～12：00
TEL 082-824-8501
FAX 082-824-8501
メールアドレス fukasyakyo@sky.pulala.or.jp

愛のともじび

深川地区社会福祉協議会に対し、福祉事業の活動にお役立て下さいと、次の方々から香典返し他のご厚志をお寄せいただきました。皆様の善意に厚くお礼申し上げます。
(平成三十年八月～十二月)

- 白石光子 深川六丁目
- 橋本光博 深川五丁目
- 福岡昭男 深川三丁目
- 栗田和明 深川四丁目
- 安部富男 深川七丁目
- 沢村初恵 深川八丁目
- 新家節子 深川四丁目
- 久都内強 深川六丁目
- 中村和義 深川七丁目
- 高橋直樹 深川五丁目
- 菜迫ユキエ 深川七丁目
- 升尾 清 深川二丁目

(受付順 敬称略)

香典・見舞返し・その他皆様の善意の募金をお寄せ下さい。お寄せいただいた募金は深川地区社会福祉事業の活動に役立てさせていただきます。

【深川地区社会福祉協議会】

深川の人を
たずねて



楽しむことで年を忘れて！

地現義雄（深川六丁目）

正月三が日も過ぎた日の暖かい午後、深川台の元気なお爺さん、今風でいえば後期高齢者の方と言いましょか、こんな表現では雰囲気が出ませんが、とにかく元気で地域活動や趣味がありっただけ楽しんでる、地現さんを訪ねました。暖かい玄関先で愛車の大きな単車の手入れ中でした。

まずは、人となりを紹介します。

昭和十二年に安芸高田市向原にお生まれになられ、この地で大きくなられた後、愛知県のトヨタに就職、二十代は車両の検査を担当し過ごす中、整備士の資格の取得など機械ものの好きな若者として生活を送っていました。

その後、地元への思いが強くなり三十代になって、広島に帰って、役所勤めに転職しました。結婚して、真亀地区に家を建てて子育てと順調な時でした。

六十を迎える頃、深川台の宅地販売に伴いこの地に住まいを変え、現在に至っています。

若い頃から楽しんでいたスキートの再開と、好きなバイク仲間とのツーリングを楽しむ傍ら、近所の方のすすめで、公民館で開催されたそば道場で、そば打ちの経験、シルバーセンターでの庭仕事など、時間のあるがまま、手を付けたものでした。今は、深川台福寿会で皆さんと

一緒に色々楽しむ中で、鉢植えの指導、病気（壊れた）のおもちゃの治療をする先生になったりと日々時間を忘れる時が多いです、とのことでした。

最近、大好きな単車を一段と大きいタイプに買い替えて、八とうん歳にもかかわらず、大容量の単気筒のエンジン特有の音を耳に、ツーリンググメンバーと共にツーリングを楽しんでおられます。筆者としては、高齢者の方の話題で、薬や病気の話ではなく、楽しいことへの話題の多い彼に大変うらやましく感じた次第です。

これからは、自治会の活動もお年寄りの多くなる中、益々活性化を期待される時期にあり、今後、彼の参加と協力を期待してやみません。

米寿まではしばらくありますが、地域に彼の姿を見ることの多かりきことを願いつつ、お宅を後にしました。

取材 川端忠男（深川六丁目）



真は愛車の手入れに余念のない地現さん

深川社協からのお知らせ

長年にわたり地域福祉に貢献されたことにより、平成30年度「広島市社会福祉大会」において、左記の方々が表彰されました。

広島市社会福祉協議会会長表彰

社会福祉協議会関係功労者

福岡 壽 （深川六丁目）

広島市社会福祉協議会会長表彰

社会福祉事業協助者

宮本祐壯 （深川六丁目）

山田雄二 （深川三丁目）

大下秀明 （深川一丁目）

増井美穂 （深川七丁目）

荒川忠臣 （深川五丁目）

山口裕子 （深川七丁目）

小島多喜子 （深川二丁目）

大瀬戸紫苑子 （深川一丁目）

東 美貴子 （深川二丁目）

川端忠男 （深川六丁目）

山口悦朗 （深川七丁目）

岩田和昭 （深川五丁目）

佐久間智子 （深川八丁目）

多川敬子 （深川五丁目）

（順不同・敬称略）

「ふかわ」51号の深川社協役員交替の欄で下深川福寿会会長の山沖満穂さんのお名前が間違っていました、訂正してお詫び申し上げます。



いきいきサロン便り

あんびんの会 (陰地・奥迫・深川台)

昭和へタイムスリップ

立川 幸恵 (陰地地区福祉委員)

「あー懐かしい、薪で風呂を焚きよったよね。」「子どもの頃は、餅つきをよう手伝った。暮れの一大行事じゃった。」「夏にはアイスキャンディーを自転車にのせて売りにきよっちゃった。カネの音まで、よう鳴るように作っとってじゃね。」

12月の「あんびんの会」では、あさひが丘にお住まいの木村茂さんが、手作りの「からくり人形」を展示してくださいました。昭和の時代の農作業や、暮しの一コマをミニチュアの人形で表現しており、ツマミを回すと精巧に作られた人形たちが動き出す仕掛けになっています。

会場の奥迫集会所は、昭和の懐かしい空気に包まれ、参加された皆さんが口々に当時の思い出など話されていました。

平成が終わろうとしている今、あらためてあのほっこりとぬくもりのある時代に戻り、師走の慌ただしさをしばし忘れたひと時でした。

展示を見終わった後、木村さんへお礼と感謝の気持ちを込めて



全員で「たき火」を歌いました。歌好きな方が多く、いつも楽しく歌ってくださるのですが、その日はひときわ皆さんの声は明るく豊かでした。

これも昭和マジックだったのかも！？

消防団活動と団員募集について

深川消防団分団長 山田雄二

消防団は、自分の地域は自分で守るとの消防精神のもと、それぞれが仕事をしながら、火事や災害時に出勤しています。活動内容は月例車庫点検をはじめ、ポンプ操法技術習得、火災や災害予防の広報活動などがあります。

昨年七月の豪雨災害時には深川五丁目の浸水現場で、ボートを使って避難誘導したり、口田七丁目の土砂崩れ現場で行方不明者の捜索など、地域貢献制度に伴う活動を行いました。さらには地域の要請に応じて諸活動が安全に行われるために、団員一同お手伝いをさせていただいております。

消防団では、団員募集を行っております。十八歳から五十歳くらいまでで、地域のために活動したいと考えておられる方の参加をお待ちしています。ぜひご応募ください。今後とも深川消防団活動へのご援助とご協力をよろしくお願いいたします。



ありじ日のわが町ふかわ 一枚の写真

今ではすっかり忘れられた、ひと昔前の深川の風景や風物を写真でご紹介するコーナーです。皆様からの写真提供をお待ちしております。

昨年七月の「西日本豪雨災害」は深川の地に多くの災害をもたらしました。

思い起こしますと昭和四十年の災害も甚大な災害でした。記録によりますと、台風くずれの熱帯性低気圧が接近した六月十八日より雨脚が激しくなり三篠川が氾濫して、中深川地区はもとより下深川地区も多くの民家や畑が水没しました。

特に尾和地区は右岸の二ヶ所が決壊し、濁水は一面水田をおおったといえます。下庄から尾和にかかる「深川橋」も無惨にも崩壊しました。



写真は崩壊した当時の「深川橋」の様子です。上部に見えるのは復旧工事に伴う仮橋です。水害から2年後の昭和43年には現在の「深川橋」が完成し渡り初め式が盛大に営まれました。

写真提供 新宅和彦氏 (尾和)